

ラダーⅢリーダーシップ研修 成果発表会

平成28年2月

リーダーシップ研修を受けた21名が、
ポートフォリオでその成果を発表しま
した。



私の目標管理

コーチングを活かしてリーダーシップが発信できる

具体的な取り組み内容

1. 病棟目標が達成できるようにチーム会の運営を行い、チームリーダーの役割を果たす。他職種スタッフと積極的なコミュニケーションをはかり、情報交換し連携促進につなげる。
2. スタッフに相談した発信が出来る。まずは、小Gの報告(G毎にダイナミクスを発信出来る関わり)をリーダー会までに確認し、まとめてリーダー会に発信しチーム会や病棟会議に戻しスタッフに戻す。
・連絡・相談・報告がスムーズに定期的に行える。毎月評価、課題確認。
3. その場にあった対応が取れる。スタッフ間の調整
・元気がないスタッフの関わり
・スタッフが時間内で勤務を終わらせるように調整
・大きな患者を受け持ったスタッフへの声掛け
4. 病棟とユニットの連絡と調整

・チームリーダーとしての役割を果たし、病棟目標の達成と決められたことが達成できるように声をかける。小Gの報告・相談・連絡がリーダー会までに確認できる。

・チームメンバーが働きやすい環境を調整する。自己の関わりでノンアサーションのスタッフの意見が引き出せるようになりたい。

・チームリーダー役割
・相手が意見を言う前に自分の意見をいってしまう。
(結論の飛躍)
・発信力はあるが、アグレッシブになりやすい
・チーム間での連絡、相談、報告が定期的に行えず継続出来ていない。
・ノンアサーションのスタッフがストレスを貯めやすい

平成 27 年 6 月 12日

スタッフからの意見

付事項が、小グループやリーダーを通して言うことで意見を言いやすい。
かで発信したことが、全体で検討される(グループR)意識してスタッフに確認しているメンバー)小グループ内で互いに協力出来ているチーム間での連絡がスムーズになった。

など

報告ルート



*実施したこと

①チーム同士で協力し、チーム会/小グループ会の運営について、文章で提示し目的・目標・活動・実施内容について明確にして、定着出来るようにした。

②チーム会でスタッフの状況確認・必要事項の伝達を行い、1週間の共有を図った。

③チーム会・小グループ会に声掛けと情報交換の継続
④進捗のための患者の把握
⑤一週で、師長・副師長・各リーダー・サブリーダー
⑥意見を報告し必要時検討
⑦議で報告・検討
⑧意見の結果を返す
⑨するための個々に対するコーチングを意識した会話と自己の
⑩思いを伝えた声掛け
⑪メンバーが働きやすい環境を調整
⑫の意見を聞く時間を意識して作った。

*成長報告書

1. リーダーの役割意識が高まり行動力がついた
2. 相手の立場を理解しようと共感しながら、自分の感じたことを伝える意識を持った
3. コーチングに意識し行動することが出来た。

リーダーシップをするために

- ①コーチング力・アサーション力をあげる。
- ②チーム内での役割を自信を持って行動できるようになる。

コーチングを活かしリーダーシップが発信できる

チーム会/小グループ会
提示し目的・目標
明確にして、定着出
スタッフの状況確認・必
チーム間での共有
声掛けと情報交換
の患者の把握
師長・各リーダー
を報告し必要時検討
コーチングを意識した
や思いを伝えた声掛け
調整する
スタッフの意見を聞く

振り返り(考察)
①チーム間での報告・連絡・相談がスムーズにいくように、文章で提示したことで、どのように行動したかの明確になった。スタッフへの発信も自主性を重んじるようになってきたことで、小グループのリーダーの意識が高まったと考える。
②チーム間の連絡を促すことで小グループの活用、話し合いを待つ機会を作り協力出来た
③継続して発信することで、意識することが出来た。
④スタッフの状況や意見は、小グループを活用することで意見を言いやすくなり収集することが出来た。
⑤個々に病棟会議で結果を出さないことで、必要な距離のみとなり検討の時間を短縮した
⑥個々のダイナミクスを発信出来ること、リーダーシップの発揮するためには、アサーティブなコミュニケーションスキルが重要であると感じた。

- 結果
- ①報告・連絡・相談のルートの確立と継続
 - ②スタッフも意見が言いやすい環境(横のつながりの強化)
 - ③病棟会議の議題にかかる時間が短縮(報告ルートの確立により本当に必要な事項のみとなった)
 - ④チームの意識が上った

私の目標管理

★ゴール（目標）

- ▶ 係メンバーの協力を得ながら、リーダーシップを図り、健康プログラムの作成実施ができる。

<ねがい>

- ▶ 係メンバーと協力して、運動の必要性、生活習慣病についてまとめ健康教室を取り入れたい。
- ▶ 病棟内で出来る運動（ストレッチ、レジスタンス、エアロビクス）の実施。

<現状分析>

- ▶ 疾患教育は出来ているが、健康教育は出来ていない。入院患者の中には、喫煙者、生活習慣病の方が多いため、少しでも健康面への働きかけが必要だと感じている。また、入院中は外に出ることも限られ、運動不足な状況もある為、少しでも病棟内で運動が出来ればと思う。自分自身の強みとしては、運動が好きで、今年、健康運動実践指導者の資格を取得したこともあり、少しでも病棟で活かして行ければと思っている。

<具体的な取り組み内容>

1. 5月、資料を集め、どんな内容にしていこうか大枠を検討し、係りで作業分担していく。
2. 6月、プログラム内容についてまとめていく。
3. 7月、作成したものを病棟の委員会に報告していく。意見をもらい修正していく。
4. 8月、患者へ実施していく。修正点などあれば検討していく。
5. 9月～12月実施していく。毎月、係りの話し合いを持ち、改善点などの検討。
6. 1月アンケートの実施。活動の評価をしていく。

自分自身の強みとして

運動が好きで、患者にも運動の楽しさを伝えたい。

健康運動実践指導者という資格を取得したため、活かしたい。

運動の必要性レクチャー風景



笑顔、声を出す効果、姿勢などのレクチャーもしました。

フィットネスの風景



音楽に合わせて楽しむことを大切に願っています。

振り返り（結果）

- ▶ プログラムの作成から開始までに、時間がかかってしまい、1か月遅れの開始となってしまった。

実施することができた。

として（患者アンケートから）

プログラムに参加してから、健康に関心を持つようになり、生活習慣病の予防に気を付けるようになった人が半数以上いた。

また、参加者全員が気分転換やストレス解消に役立った。

今後の課題

- ▶ 今回、健康プログラムを立あげることができたが、継続できるように工夫していく。
- ▶ 進行役割が私自身の状況であるため、他スタッフが進行できるようにしていく。
- ▶ 患者にとって、運動を楽しみながら行う機会となった。退院後も生活習慣病予防の継続できる情報提供が必要。

私の目標管理

ゴール(目標)

多飲症心理教育における現状の見直しと評価尺度をつくる

ねがい(目的)

- ・患者の進捗状況が分かりスタッフが充実感が得られる心理教育ができる。
- ・患者が自主的に体重コントロールができる。

現状分析

- ・さまざまなレベルの患者の心理教育を一緒に行っている。
- ・患者の反応が乏しく看護師の充実感がないため心理教育が業務的に行われている。

具体的な取り組み内容

1. 現状の心理教育についてスタッフにアンケートを実施する。
2. 現状の分析と見直しを行い、問題点を明らかにし解決策を導く。
3. 患者評価尺度を作成し、それを用いて患者評価を行い分析する。
4. スタッフの意識の変化を調査する。

果

ート

療看護師20名(回収18名)→北療看護師9名

教育中に困ったこと：ある 80% ない 20%

1：患者1人1人に合わせるのに難しい

どこまで話したらいいかわからない

患者の反応がない

心理教育に満足している：している20% していない 70% 無回答10%

1：患者の反応がなくこれでもいいのか不安

患者の変化がはっきりしないので効果がわからない

2：用パンフレットの使用：使用している 55% していない 45%

3：患者のレベルに比べ内容が難しい部分がある

ない) 30分では全部やりきれない

4) 理解力に合わせてポイントをしぼって行っている

(1) 多飲症心理教育評価表を作成する

(2) スタッフ用パンフレットのポイントをしぼり患者用パンフレットに入れる

定心理教育評価表

5項目
増加の程度=日内体重変動率(NDWG)が改善したか

2項目
に関する行動の変化が見られたか

3項目
の対応行動が適切か

F:1B入院中の患者4名 運用：心理教育が1クール終了時受け持ちが評価

1. 評価項目と評価基準		2. 評価項目と評価基準		3. 評価項目と評価基準		4. 評価項目と評価基準	
項目	評価	項目	評価	項目	評価	項目	評価
1. 増加の程度	5.0	2. 増加の程度	4.0	3. 増加の程度	3.0	4. 増加の程度	2.0
2. 増加の程度	4.0	3. 増加の程度	3.0	4. 増加の程度	2.0	5. 増加の程度	1.0
3. 増加の程度	3.0	4. 増加の程度	2.0	5. 増加の程度	1.0		
4. 増加の程度	2.0	5. 増加の程度	1.0				
5. 増加の程度	1.0						

の平均値は、4名いずれもが評価を高くしており、体重増加の程度が抑えら

重経過率は低下できておらず、ベース・リミット体重を見直す時期にあつたことが

ある。

検査を含む水の工夫では、4名いずれもが望ましい行動が多く取れるようになっている。

患者のレベルに合わせた心理教育を実施し、行動改善がみられている場合が多い。

3. インタビューによるスタッフの意識調査

① 受け持ち患者の変化が実感できて素直に嬉しい。

具体的なデータとして現れるとわずかながらでも変化が実感できて良い。

1) 返し継続していくことが大切であると実感した。

2) 記録の中に患者の変化を読み取る記載が増えたように思える。

F:バージョンが上がりつつ。

振り返り

・アンケートにより現状分析の裏付けができ、問題点が明確になった。

・評価表を用いて可視化したことで、スタッフのモチベーションが上がり、意欲的に取り組めた。

・心理教育を意識した関わりが増えたと患者の変化に気づきやすい。

なく日々の関わりの中での繰り返しの指導が大切であることを再認

ずに患者指導をしていくことが大切である。

がみられており、長期的な関わりが期待できる。

でメンバーと取り組んだが、アサーティブなコミュニケーションの不

と十分に引き出すことができなかった。

内容の再検討

運用法の構築

スタッフ用パンフレットの作成(作成中)

スタッフ用パンフレットを使っている効果の査定

成長報告書

1. 心理教育について改めて見直し考えることができた
2. 患者の変化を実感し意欲的に取り組めた
3. 発信力がないという自分の弱みを再認識できた

今後どのように活かしていきたいか

患者の小さな変化を実感しながら楽しく心理教育を続けていきたい。

自分の考えを積極的に発信できるように努力していきたい。

のリーダーとして

一ヶ月のスケジュールや状況を踏まえて、月1回は話し合いができるように

がけられなかった。そこで個別に意見や想いを確認したが十分に反映

した。

1) 考えを発信することが苦手、協力依頼などが適切にできず、メンバーの

性を生かすことができなかった。